常陸大宮市史編さんだより　Vol.38

前方後円墳は何を語る？

萩野谷　悟　氏
考古部会専門調査員
（市教育委員会文化スポーツ課嘱託職員）

古墳時代を担当する萩野谷悟です。浅学ですが、より良い市史となるよう精一杯頑張りますのでよろしくお願いします。

さて、今年7月、古墳関係で大きなニュースがありました。ユネスコ（国連教育科学文化機関）の世界文化遺産に日本の古墳群が登録されたのです。登録されたのは、大阪府にある「百舌鳥・古市古墳群」です。最大の前方後円墳「仁徳天皇陵古墳」（大山古墳または大仙古墳、墳丘長486ｍ）や2番目に大きい「応神天皇陵古墳」（誉田御廟山古墳、同425ｍ）など古墳49基が構成資産とされました。これらの古墳は4世紀後半から5世紀後半ごろに築造されたもので、堺市（百舌鳥エリア）と羽曳野・藤井寺両市（古市エリア）に密集しています。各古墳の被葬者が学術的に確定できているわけではありませんので特定の天皇名などを古墳名称とすることには問題がありますが、ともかく日本における国家形成期の社会の在り方を目に見える形で表しているモニュメントであることは間違いありません。

これらの構成資産の中には前方後円墳が多く含まれています。大規模な前方後円墳を築造するには、大きな権力もさることながら、当時としては高い技術力が必要だったと思われます。前方後円墳は、平面形が鍵穴のような形をした古墳です。円形や方形と違い、前方後円形というのはかなり複雑です。この複雑な前方後円形を大規模に、しかも整然と地上に構築するには精密な設計図や高い技術力が必要で、実際それらが存在したと思われます。前方後円墳は九州から東北地方まで分布していますが、このように広く分布しているのは、各地域の有力者が中央政権との関係を持つ中で築造が許され、必要な情報が与えられたからだと考えられています。

常陸大宮市内にも、それほど大きくはありませんが、前方後円墳が存在します。五所皇神社古墳（下村田、墳丘長約60ｍ）、糠塚古墳（小祝、推定墳丘長90ｍ）などです。県立大宮工業高校（当時）建設に伴い調査され、人物埴輪などが出土した一騎山古墳群４号墳（下村田）も、墳丘長24ｍの小規模な前方後円墳でした。

▲五所皇神社古墳（南から）

市内の前方後円墳はどのような政治状況、あるいは社会構造の中で築造されたのでしょうか。市史編さんの中で、どれだけ実像に迫れるか心もとないですが、具体的な存在の様子などをきちんと把握したうえで考えてみたいと思います。

■問い合わせ■

文化スポーツ課

文化・スポーツグループ　☎52-1111（内線344）